

Contents Vol.221

2020.10.9

01 巻頭特集

- 1 新型コロナウイルス対策
オンライン授業で新年度スタート
- 2 大体大PEOPLE
宗川 佳弘・紳士用革製品 Munekawa オーナー

05 NEWS

- 1 林尚樹(体育4年)が鹿島アントラーズに入団内定
今春卒業の山田友哉がバスケットBリーグと選手契約
- 2 陸上インカレ
やり投げの坂本達哉が優勝、武本紗栄が準優勝
陸上競技部部長の栗山佳也教授が秩父宮章を受賞
- 3 硬式野球部女子 全国大学選手権で準優勝
水上競技部 オータムチャレンジ11種目で金
- 4 ラグビー部 安藤栄次・元日本代表が新HC就任
- 5 コロナ禍で大体大教員の解説、研究にメディア注目
広報室の誕生でネット広報拡大

10 EVENT

- 1 今年で30年目 海洋スポーツキャンプ実習
- 2 わくわくアダプテッド・スポーツクラブ
- 3 社会貢献センター 子どもの体力向上推進プロジェクト
大阪体育大学 資金収支・予算報告
教育後援会
- 4 オープンキャンパス2020
学友会新役員

13 コラム「窓」

14 コラム「ボーシャー」



オンライン授業で新年度スタート

6月から対面授業とスポーツ活動再開／7月に感染者判明し一旦中断

新型コロナウイルスのニュースで幕を開けた2020年。地球規模で感染が広がる中、大阪体育大学も異例づくめの運営を迫られた。3月13日からクラブ活動を停止して、学生の入構を原則禁止。授業は4月20日からオンラインで行うこととし、熊取キャンパスは学生のいない静まり返った状態で新年度を迎えた。

3月27日に設置した岩上安孝学長を本部長とする「新型コロナウイルス対策本部」は、対面授業とクラブ活動を再開する時期を探りながら感染防止対策を練り、6月から段階的に学生を入構させる形で正常運転にこぎ着けた。



学生らによる感染予防活動



間隔を空けて着席



感染予防型の キャンパスに改造

全国的には前期授業をすべてオンラインで実施した大学も少なくなかったが、大体大の特徴として実技や実習の授業が多く、オンライン授業では学生の習得度に限界がある。対面授業の再開は重要課題であり、対策本部は6月19日から対面授業への切り替えを決定。まずは1、4年次配当科目の履修生が入構し、1週間後に2年次配当科目の履修生、2週間後に3年次配当科目の履修生が入構し、7月3日、ようやく学生全員がキャンパスで顔をそろえた。

学生を迎えるにあたっては、臨時手洗い場を約20カ所増設、食堂、レストランは座席数を絞り込んで、座席を仕切るシートを取り付け。座席の授業はすべて座席表を学生に配布し、座席の間隔をキープした。

学友会が呼び掛け

キャンパス内の感染予防意識の啓発には学友会も動いた。「学友会&教職員協同プロジェクト」として、学生や教職員から感染防止をテーマにした標語を募集し、優秀作品をポスターにして学内に掲示。授業の合間や昼休みには、密接、密閉、密集を避けるメッセージを書いたボードを持ってキャンパス内に散らばり、3密回避を呼び掛けた。



「学友会 & 教職員協同プロジェクト」
感染防止ポスター



臨時手洗い場

6月にスポーツ活動再開

対面授業とともに「再開」が課題となったのはクラブ活動だ。クラブ活動停止が決まった3月13日以降、学生は各自で自宅トレーニング。各種競技大会は軒並み中止となっており当面の目標もなく、学生は仲間とも会えない孤独な状況だった。

4月7日に発令された国の緊急事態宣言が5月21日に大阪府も解除になり、対策本部は6月からスポーツ活動の段階的再開を決定。接触を避けてソーシャルディスタンスを確保するなど厳しい条件付きながらも、全国に先駆けての試みを行った。

感染者判明で 再度の入構禁止

クラブ活動も条件をだんだん緩和して通常の練習に戻りつつあった7月10日、学生2人の新型コロナウイルスの感染が判明。7月22日までクラブ活動を再停止し、授業もオンライン授業に戻して学生の入構を禁止。新たな感染者が出なかったことから、7月23日に学内活動は再開した。

後期授業はハイブリッドで

後期の授業は9月26日に再開された。原則として実技は対面で行う一方、感染防止を徹底するために講義はオンライン授業をメインにし、対面とリモートのハイブリッド方式をとることにした。クラブ活動では、関西学生秋季リーグやインカレなどの大会が競技によって開催、延期、中止と対応が分かれ、部によっては練習の成果を発揮する試合がなくなったショックが広がった。夏には感染者数が漸減する傾向も見られたが、先行きは不透明。感染防止を確実に行う一方で、学生の学びやスポーツの機会をいかに確保するか、試行錯誤が続いている。



学生と職員の間にはシート

思い出を刻みながら 人生を共にする品を作りたい



宗川佳弘（むねかわ・よしひろ）
1976年8月5日生。大阪府羽曳野市出身。大阪市在住。大阪体育大学体育学部卒、31期。革製品づくりを独学で学び、紳士用革製品ブランド「Munekawa」設立。2017年度おもてなしセレクション金賞受賞。妻と1男。



革職人 紳士用革製品ブランド MuneKawa オーナー

宗川 佳弘さん

大阪市西区の土佐堀通り沿いにスタジオリッシュな店舗を構える紳士用革製品店「Munekawa」（ムネカワ）。2015年に店舗兼工房としてオープンした。オーナーの宗川佳弘さんは「ビジネス街のど真ん中に工房があると、注目されるだろうと思ってここにしました。ミシンで作業している様子が外から見えるようにして、通りかかった人たちに『ものづくり』を身近に感じてもらえるようにしました」と話す。注文が増えてしまい、ビジネス街の工房は手狭になったため、3年前に別の場所に工房を新設することになった。かばん、財布、キーケースなど一つ一つ手作りの製品は、使いやすさに気配りした繊細さと壊れにくく長く使える頑丈さを併せ持つ。2017年度「おもてなしセレクション」の金賞を受賞し、知名度が広がった。インターネットでの注文も増えて、新型コロナウィルス禍でも何とか経営は持ちこたえられているという。

学生時代については「何を勉強したのかは正直、良く覚えてないのですが」と苦笑しつつ、「自分がやりたいことにチャレンジできた幸せな4年間でした」と振り返る。大学での友人関係が、自身の性格形成にも影響した。

「大阪体育大学の学生ってとにかくアクティブで、いろいろな大学の学生が集まる集団の中では、自然にリーダー的立場になるようなタイプが多いんですよ。僕はもともとあまり社交的な性

格ではなかったたので、友人たちにコミュニケーション能力を鍛えられました」
休みを利用しては各地に出掛けた。自転車道で北海道一周。車でアメリカ縦断、カナダは東西を往復した。夜は車中で寝たり、公園で寝るというワイルドな旅ばかり。警察官に注意されるのにはすっかり慣れてしまっただった。
青春を謳歌した大学生活の終わりが見えてきたころ、就職活動をして会社員になるという一般的な人生のコースを描くことができなかった。「俺はいたいという仕事があったのだから？」と必死に自問自答した。旅行やキャンプが大好きなので「アウトドアに関する仕事」にも関心があつた。その一方で、子供のころから「ものづくり」も好きだった。手帳やポーチなど身近なものを手作りし、ホームセンターで材料を仕入れて棚を作り自力で自室をアレンジした。テレビ番組で靴職人、家具職人、陶芸家、大工など様々な業界の職人たちが紹介されるのを見ると、「恰好いいなあ」と憧れた。

宗川さんが小学生の時まで、父親は革製品の材料となる革を卸す仕事をしていた。商売をたたんだ際に在庫だった革が自宅にあり、それを使って宗川さんは小物を作っていた。革に関する知識は父親に聞けば教えてもらえた。自身にプライオリティーがあるのは「革製品のものづくり」だという結論に達し、その道を目指すことを決意する。



大学卒業後は大阪を離れ、岐阜県の革職人に弟子入りする。昼は工房、夜は生活費を稼ぐため居酒屋でアルバイト。ところが、工房では思うような技術の習得ができず、宗川さんは8カ月で見切りをつけた。その後は、「とにかく革製品用のミシンを買おう」と目標を立て、居酒屋のアルバイトに徹した。当時、ミシンの価格は70万円ぐらい。ほとんど休みなく働き、約1年かかってミシン代金を貯めた。

そこから大阪に戻り、独力で革製品の製作方法を勉強する。買ってきた革製品をバラバラにして構造を調べ、ミシンで自分なりに作ってみる試行錯誤が続いた。自分の思った製品が作れるようになってからは、大阪や神戸の野外マーケットに売りに出かけた。2年ほどして、ようやく月20万円ぐらいの売り上げが確保できるようになった。その時、野外マーケットの仲間から声を掛けられる。

「近く紳士服のセレクトショップを出

店する。君の製品をうちの店に置いてもらえないか」

こだわりの紳士服を選びに来る男性たちは、宗川さんの手作り革製品に心惹かれるだろうと期待されたのだ。

まもなくすると、革製品に使うファスナーなどの金具を扱うバイヤーから、「百貨店で催事をしてみませんか」と提案された。百貨店の紳士服売り場で、ミシンを使い製品を作る場面を見せながら商品を売るというスタイルだ。この催事をきっかけに百貨店業界に評判が広まり、大阪だけでなく京都や東京・銀座の百貨店からもオフファーがやってくる。

ムネカワ製品の特徴は、大きい革パーツを使っていることだ。小さな革をつなぎ合わせた製品は、つなぎ目が傷みやすく寿命が短い。ムネカワはなるべく一枚革での製作を目指し、極限まで革のつなぎ目を少なくする。材料の革から大きくパーツを取ると、捨てる部分も多くなりコストは膨らむが、宗川さんは「長く使い続けてもらえるものを作りたい」という方針を堅持している。そのため、デザインはシンプルだ。シンプルであることは「壊れにくい」。「革製品は使用することによって味わいが出てきます。うっかりこすって付いた傷や、コーヒーをこぼしたしみも『思いつき』なんです。いつも自分の傍らにいて、思い出を刻みながら人生を共にしていく、そんな製品を目指しています」

長く使うことが前提なので、修理の注文も受けている。持ち主の愛着をひしひし感じる製品が送られてくると、胸が熱くなるという。

「先日、トートバッグの修理の依頼をいただいたのですが、4万円ぐらいの商品で、修理代に2万5000円かかるんです。それだけ払っても、このバッグをずっと使いたいと思ってくれる

お客様の気持ちがうれしい。きつとバッグにいろいろ思い出がしみ込んで、手放せないんだろうなあって」

持ち主の人生に少しの「心豊かさ」をプラスして——。ムネカワの製品はそんな宗川さんの思いを乗せて、今日も人々の手に渡っていく。

【OUHSジャーナル編集長 和泉かよ子】



Munekawa
大阪市西区江戸堀1-24-12
TAT江戸堀ビル1F
<https://www.munekawa.jp/>



大阪体育大学サッカー部の林尚輝（体育4年）が6月、Jリーグ、J1の鹿島アントラーズに入団が内定した。林は「歴史と伝統、そして素晴らしいサポーターがいるクラブの一員になれることを本当にうれしく思います。幼い頃からの夢である『夢や希望を与えられる選手』になるためのスタートラインに立つことができました。今まで支えてくださった人々への感謝の気持ちを忘れず、1日でも早く鹿島アントラーズの勝利に貢献できる選手になれるよう日々精進します」とコメントした。

林はサッカー部での活躍だけでなく、学業面でも3年連続で体育学部上位5人の「学業優秀者」入る頭脳派。男子サッカー部の松尾元太監督は「学業に対しても高い向上心を持ち、専門競技においても志を持続して質の追求を続けている。大学生活で大きく飛躍した選手」と評する。

大阪府堺市出身の林は中学生の時、「自分には忍耐強さが足りない」と考え、親元を離れて島根県松江市の立正大学松南高校に進学。3年間の寮生活で「あきらめずにコツコツと努力することができるようになった」と話す。忍耐力を身に付けた後は、「もつとメンタルを鍛えたい」と大阪体育大学に入学し、「スポーツ心理学やスポーツ科学を学んだのは、メンタル面の成長につながった」と自己分析する。

「文武両道」を掲げる大体大アスリートを体現する林。来春、鹿島アントラーズに羽ばたく。

文武両道の大体大アスリート 鹿島アントラーズに入団内定

林 尚輝（体育4年）



「フレッシュな気持ちで積極的にプレーしたい」

Bリーグと選手契約

今春卒業の 山田 友哉



大阪体育大学のバスケットボール部に所属し、2020年3月に卒業した山田友哉選手（体育学部）が6月、プロバスケットボールリーグ「Bリーグ」B2・西地区の愛媛オレンジバイキングスと選手契約を締結した。身長190センチ級がそろったプロバスケットボールの世界で、山田選手は178センチ。「身長が高くないけどバスケットをやっている子どもたちの希望になるようなプロ選手を目指す」と話している。

山田選手は北海道札幌市出身。小学1年からミニバスケットボールを始め、「高校2年ぐらいでもっと上手になりたい」という気持ちが強くなった。バスケットに真剣に向き合った時、プロ選手になる夢が生まれた」と振り返る。大体大に進学し、バスケットボール部の比嘉靖監督からは競技の前にまず、「人としてあるべき姿」を忘れないよう教育された。あいさつをする、脱いだ靴はそろえておく、など立ち振る舞いを大切に、クラブ活動だけに熱中せず、授業もきちんと出席して勉学を怠らないよう意識してきた。

比嘉監督の目指すバスケットは「ポジションを徹底した組織のプレー」で、山田選手は「立ち位置が1歩違うだけでシュートを打つべき時に打てなかったり、1歩のミスが勝敗につながる。1歩にこだわることを読まれた」と言う。

山田選手の持ち味はシュートの成功率の高さ。プロ入りを果たし、「フレッシュな気持ちで積極的なプレーをしたい」と話す。恩師の比嘉監督は山田選手を「リーダーシップでチームを鼓舞するタイプ」と評し、「プロとしてのスタートラインに立てたことに周囲への感謝の心を持って頑張つて」と激励している。

陸上競技部 全日本インカレ

坂本優勝 武本準優勝

コロナ禍のクラブ活動休止を経験して

天皇賜杯第89回日本学生陸上競技対校選手権（全日本インカレ）が9月11日～13日、新潟市のデンカビッグスワンスタジアムで開催され、大阪体育大学は投擲競技のやり投げで、男子は坂本達哉（大学院2年）が73m96で優勝、女子は武本紗栄（体育3年）が57m43で準優勝した。

坂本は昨年6月の日本学生陸上競技個人選手権を73m26の記録で優勝している。新型コロナウイルス禍で3月から約2カ月半、クラブ活動が完全に休止して自宅待機になったため、その間は全くやりを持つことができず、「サンドボールで代用したり、ペットボトル



を使って筋力トレーニングをしていた」と話す。6月に活動再開した時は、800gのやりが重く感じたという。

練習不足にもかかわらず金メダルを手にしたが、記録が伸びず、「優勝した気がしない」と率直な思いを語る。昨年9月の同じ大会では2位ながら75m38を記録しており、今回、飛距離が縮んだ。「体は動くのにやりが飛ばない」と感じている。大学院は今年度で卒業し、実業団で競技を続けたい意向だ。「実業団で80mを飛ばせる選手になりたい」とステップアップの道を思い描く。

一方、武本は準優勝ながら自己ベスト記録を更新。「大学に入ってから納得できる試合がなく悩んでいたけれど、今回のインカレで長いトンネルを抜けた感じがする」と晴れ晴れした表情。

2月末にバイクで事故を起こし、右足の親指を骨折。松葉杖の生活になっ

た。「この際しばらく競技から離れよう」とリセットの機会ととらえ、「足が使えないなら上半身のトレーニングをしようとか考えず、ひたすらぼーっとしていた」という。3月半ばに新型コロナウイルスの影響でクラブ活動が休止になる前から、武本は休止状態にあった。トレーニングしないので筋肉はみるみる落ちたが、ある時、肩を回すと「あれ？可動域が広がっている？」と感じた。事故から2カ月経って足が完治したので1日5キロ以上走ることにすると、体に目立った変化が訪れた。「体がどんどん絞れていく。それがうれしくなっ

て走り回った」と話す。

陸上競技部部長の

栗山佳也教授

秩父宮章を受章

大阪体育大学の陸上競技部部長の栗山佳也教授（体育学部）が9月、陸上競技の発展、普及、人材育成に尽力した功労者に授与される日本陸上競技連盟の秩父宮章を受章した。

栗山教授は日本学生陸上競技連合の理事を10年以上務め、強化委員長は今年で5年目。学生のオリンピックと言われるユニバーシアードにこれまで4回、指導者として参加。こうした実績が評価されての受章となった。



やり投げの選手として日本陸上競技選手権で優勝経験がある栗山教授は、大体大陸上競技部でインカレ優勝を目指す全国でもトップレベルの投擲選手らを育成、指導している。受章について「日本の陸上界を築き上げてきた先輩方に追いつけた気がしてうれしい」と喜んでいる。

絞った体で臨んだ今回の全日本インカレの結果を受け、武本は「高校時代は何も考えずにやりを投げて、それでやりが飛んでくれた。大学ではいろんな知識が増え、あれもやらなきゃ、これもやらなきゃ、って課題が溢れかえっていた。怪我やコロナ禍で環境が変わり、『自分にとって何が一番大事なのか』が見えてきた」と分析する。

大学生として最終年度の来年の目標は「60mを飛ばしてインカレ優勝！」と宣言。体は細くなったが、人間はひと回り大きくなり、高校時代から目標だった「60m」の実現にエンジン全開だ。

硬式野球部女子

全国大学選手権で準優勝

決勝進出は初

第10回全国大学女子硬式野球選手権記念大会が9月18日～20日、和歌山県田辺市と上富田町で行われ、大阪体育大学は準優勝した。春の大会では昨年度、準優勝したが、秋の大会で決勝戦進出は初めて。

全国の10大学8チームが参加。18、19日は8チームをA組とB組の2グループに分けて予選リーグが行われ、大体大はA組2勝1引き分けの1位で通過した。上位4チームの決勝トーナメントでは、大体大は準決勝戦で環太平洋大学（岡山県）と対戦。エースの横井千晃（体育4年）は環太平洋大を1点に抑え、押し出し死球で2-1のサヨナラ勝ちした。

決勝戦では、予選リーグで1-1の引き分けだった尚美学園大学（埼玉県）と対戦。横井は初めての1日2連投に臨んだ。五回までは尚美学園大の強力打線を1点に抑えたが、六回に4失点。打線もチャンスを生かせず、0-5で無念の敗北。



エース 横井千晃



投手の横井は「決勝は気合で投げたが、この結果は悔しい。これからは『打倒関東』を掲げて練習してほしい」と後輩たちに優勝の夢を託した。横井光治監督はあと一步で優勝を逃した悔しさをこらえ、「コロナ禍の中で4年生をどう送り出そうかと、そればかり考えてきた。大会が最後までできたのを喜びたい」と語った。

水上競技部

オータムチャレンジ11種目で金

コロナ禍で練習工夫した成果



男子400mフリーリレーで優勝した（左から）武田力紀、村田勇輝、泉大雅、市川舜明



女子400mフリーリレーで優勝した（左から）青山美咲、河岸凜子、水谷楓、新山くるみ



男子400mメドレーリレーで優勝した（左から）武田力紀、春岡草太、浅井拓実、芝崎大賀

毎年7月に開かれている関西学生選手権水泳競技大会と関西女子学生選手権水泳競技大会が新型コロナウイルスの影響で中止になり、代替大会の「関西学生秋季水泳競技大会オータムチャレンジ」が9月21、22両日、大阪市の丸善インテック大阪プールで開催された。大阪体育大学は男女11種目で優勝、水中もブルサイドも笑顔が弾けた。

尾関一将監督（男子）は「冬場のトレーニングを考えれば満足な結果ではなかった」としながらも、「春からはコロナ禍でクラブ活動停止になり、練習環境がなくなった。そんな中で学生たちは工夫して目標達成に取り組んだ。それが今大会の結果であり、学生たちを誇りに思う」と称えた。

◇優勝選手は次の通り◇（学部は全員が体育学部）

【男子】1500m自由形 岸田晃祐（3年）▽100m平泳ぎ 浅井拓実（4年）▽200m平泳ぎ 浅井拓実▽100mバタフライ 春岡草太（3年）▽200mバタフライ 北村祥瑛（1年）▽400mフリーリレー 武田力紀（2年）、村田勇輝



200mバタフライ男女V。（左から）浅井拓実、榮樂遥香



200m個人メドレー男女V。（左から）北村祥瑛、青山美咲

（同）、泉大雅（同）、市川舜明（3年）▽400mメドレーリレー 芝崎大賀（4年）、浅井拓実、春岡草太、武田力紀
【女子】50m自由形 新山くるみ（2年）▽200m平泳ぎ 榮樂遥香（2年）▽200m個人メドレー 青山美咲（1年）▽400mフリーリレー 青山美咲、河岸凜子（2年）、水谷楓（1年）、新山くるみ



安藤栄次・新HC

ラグビー部

安藤栄次・元日本代表が 新HC就任

学生目線を大切に

今春、大阪体育大学のラグビー部は新HC（ヘッドコーチ）を迎えた。三菱重工相模原ダイナボアーズでアシスタントコーチを務めていた安藤栄次・元日本代表（38）だ。大体大ラグビー部は2017年のリーグ戦で4年ぶりに関西大学ラグビーAリーグへの復帰を勝ち取り、2018年度からAリーグで戦ってきたが、昨年度のリーグ戦は入れ替



グラウンド全体を使ったラグビーを目指す

え戦に敗れてBリーグに転落。抜本的にチーム改革するためフルタイムの指導者を探すことになり、安藤新HCの就任に至った。

新型コロナウイルス禍によるクラブ活動休止が開けた6月末、安藤・新HCは「選手らはみんなポジティブで、素直で真面目な印象。指導するのが楽しみ」と語った。

安藤HCは埼玉県出身、早稲田大学卒。現役時代のポジションはスタンドオフで、早大では大学選手権優勝を2度経験した。大学を卒業し、2005年にNECグリーンロケッツに入部、2012年からは三菱重工相模原ダイナボアーズでプレー。日本代表時代に国際試合に出場したキャップ数は13。2014年に現役を引退し、2015年から三菱重工相模原のアシスタントコーチをしていた。大体大ラグビー部のHCにスカウトしたのは久門大朗・チームディレクター。安藤HCが三菱重工相模原で現役

選手との信頼関係を大切に

選手だった時、久門ディレクターは通訳としてチームに関わり、以後も連絡を取り合う関係が続いていた。久門ディレクターは安藤新HCについて「学生時代は強い早稲田大学でウィニングカルチャーを見てきた人。三菱重工相模原のアシスタントコーチとしては、トップリーグに昇格する苦労も味わった。コーチとしての能力、経験、そして人を惹きつける人間的な魅力。申し分のない人材と思った」と評する。久門ディレクターの誘いに、安藤HCは「HCはやったことがないポジション。チャレンジしたい」と感じたという。2018年に福島県伊達市の聖光学院高校でラグビー部の客員コーチをし、月1回のペースで通う指導で同高は見事、初の全国大会出場を果たした。高校生と接する中で「目線を下げて話をする」ことの大切さを知ったという。「僕が当たり前前に使っている言葉でも、生徒は理解していない場合がある。分からないまま放っておくと、少しずつ歯車が狂っていく。生徒がどう考えているのか、それを引き出して、理解していないところは修正しないといけない。そのためにも、何でも話ができる環境、信頼関係が重要」

× × × ×

新HC就任とともに、チームに新風を吹き込みそうな存在が、チーム史上初めての外国人留学生、ツボウ・マヘ（体育1年）だ。ラグビー強国、トンガの出身で、高知中央高校（高知市）から大体大に進学。身長180センチ、体重105キログラムの体格で、「将来はプロ選手を目指している」と言う。大体大での目標は「Aリーグで戦いたい」。



ツボウ・マヘ（体育1年）

コロナ禍のスポーツへの影響

大体大教員の解説、研究にメディア注目

新型コロナウイルス禍で東京オリンピックをはじめスポーツ競技が中止や延期などの影響を受けたことから、今年度に入ってから大阪体育大の教員にマスメディアの取材が相次いだ。

4月には、パラリンピアンの本篤・客員准教授がNHKニュースに登場。東京パラリンピックに出場が内定していたのに延期になったことを問われ、「デメリットを考へても仕方ない。新型コロナウイルスが収束して誰もが楽しめるパラリンピックで、最高のパフォーマンスをする」と語った。



NHK ニュース



藤本淳也教授

藤本淳也教授（スポーツマーケティング）は、6月に「朝日新聞ウィークリー AERA」の東京五輪開催の条件を考える企画で、「各国、各競技団体の予選や選考会が公平にできることが重要」とコメント。8月の週刊文春では、東京五輪が無観客や観客数を制限して開催された場合に起こりうる問題について、チケットの返金などを取り上げた。

土屋裕陸教授（スポーツ心理学）は5月、読売新聞の「夏の甲子園中止」の記事で、「高校球児たちには次の目標に向けたサポートが必要」と見解を述べた。9月にはテレビ大阪の「やさしいニュース」で、「目標にしていた大会が中止になったアスリートのモチベーションをどう克服するか」をテーマにしたコーナーで、土屋研究室の研究内容が紹介された。土屋教授は「大会が

なくなったのを嘆いてもいい。目の前の目標はなくなったが、その後の目標が全部なくなったわけでない」とし、先の目標を自覚させる講習を披露した。4連覇をかけた全国大会がなくなり意気消沈する学生たちに、直近の目標から、将来の夢まで、人生の目標を5段階に分け、それぞれの達成に向けて何をするか課題を書き込ませると、学生たちはやる気が戻ったという。スポーツに関し幅広い人材をそろえる大体大に、メディアの注目度は高まっている。



テレビ大阪の「やさしいニュース」

広報室の誕生でネット広報拡大

ツイッター、インスタも開始

大阪体育大学では今年4月、入試・広報部から独立して「広報室」が誕生しました。広報ツールとしては、新しくツイッターとInstagramを開始。SNSも積極的に活用して大体大の魅力を発信していきます。「大阪体育大学 広報室」の各SNSを是非、フォローしてください。

新型コロナウイルスの影響でインターネット上の発信が重要性を増す中、3月に大学ホームページを全面リニューアルしました。トップページの冒頭に動画を配し、本学の学びを支える教師陣を紹介する「Tアクティブ」、多彩な分野で活躍する卒業生らが語る「Tパーソン」など、読みやすくビジュアルに。特に力を入れているのが、NEWS（新着情報）の鮮度とボリュームのアップ。野外実習や各種イベント、社会貢献活動、各クラブの活躍など多彩な話題をスピーディーに掲載するよう努めています。

スマートフォンの普及に合わせ、SNS発信も充実させていきます。従来からのフェイスブックは情報量を増やし、広報室の公式ツイッター、公式Instagramも新たに始めました。

大体大の研究活動はメディアからの取材も多く、4月以降、全国紙やテレビ局などから数十件の取材依頼があり、各教員が積極的に応じて紙面や画面を通じて本学のブランド力向上に寄与しています。メディアの報道についても、広報室からインターネットで素早くお知らせしていきます。【広報室】

公式 facebook @ouhs.kouho



公式 twitter @daitaidaikoho

お知らせ



今年で30年目 海洋スポーツキャンプ実習 コロナ対策を工夫し実施 手作り筏レースで盛り上がる

手作り筏レース



カヌー

2020年度の海洋スポーツキャンプ実習が8月に行われた。今年3月に退職した野外活動教育の専門家、福田芳則・前副学長が手塩にかけて育てたこの実習は、今年で30年目。新型コロナウイルスの影響で臨海実習やキャンプ実習が中止になる中、海洋スポーツ実習は、宿泊せずに日帰りとし、前期と後期を分けて一度の参加者を減らす工夫をして、歴史を途切れさせず来年にバトンをつないだ。

これまでは徳島県のYMCA阿南国際海洋センターで実施していたが、今年は会場を大阪府岬町の府立青少年海洋センターと淡輪ときめきビーチに移した。実習の前期は8月20日～22日。体育学部の3、4年生約80人が6グループに分かれ、ヨット、カヌー、カッター、ボードセーリングなど6プログラムにローテーションで取り組んだ。

海洋スポーツは初めてという学生も多く、一人乗りのカヌーでは「最初は転覆しないか不安だったけど、だんだんと波に乗れるようになった」などと上達を楽しんだ。一人乗りのヨットでは、10数メートル先の二つのブイを周回するというレベルの高い課題が与えられるが、海洋センターのスタッフが「初心者でもびつくりするぐらい上手い。スポーツをやっている人はセン

スがいいですね」と舌を巻く出来栄。「これが体大生のポテンシャルです」と胸を張る学生もいた。

タイヤと板をロープで固定して筏（いかだ）を作るプログラムもあり、グループごとに出来上がった筏に乗って海へ。手作り筏でのレースは掛け声と歓声で大いに盛り上がった。

3泊4日で実施していた例年は、夜もキャンプファイアーなどで親睦を深めるが、今年は昼のプログラムのみ。それでも学生らは「学科も部活動も違う学生と知り合いになれた」「先生とたくさん話ができた」「初めての経験ばかりで新鮮だった」と、日常を脱した実習の充実感を味わっていた。

ヨット



カッター



わくわくアダプテッド・スポーツクラブ

コロナ禍乗り越え 活動再開

障がいのある中高生にスポーツの楽しさを



大阪体育大学の学生と障がいのある子どもたちがスポーツにチャレンジする「わくわくアダプテッド・スポーツクラブ」は今年度、新型コロナウイルスの影響で活動を見合わせていたが、感染防止対策をとって夏に活動再開した。今年度初回は7月25日。来年3月まで1ヵ月2回程度のペースで実施する予定。アダプテッドスポーツとは、高齢者、障がい者、子どもなど体の動きに制限があったり、体力がない人に合わせ、競技のルールを適合（アダプテッド）させたもの。同クラブは2016〜2020年度の研究事業「特別支援学校生徒のアダプテッド・スポーツ実践の場の提供とその効果」の一環として創設され、教育学部生を中心に活動している。



今年度3回目となる8月22日は大体大の第6体育館3階の多目的アリーナで行われ、近隣の支援学校の中学部・高等部の5人が参加。大体大の学生は「アダプテッド・スポーツ実習」の授業の履修生ら17人。障害物リレー、卓球、大縄跳び、ボールで的を打ち抜くストラック・アウトなどに一緒に取り組んだ。支援学校の生徒らの大半は事業初年度から参加しており、体育館で顔馴染みの学生を見つけると大喜び。運動が始まると、スタートの号令とともに勢いよくダッシュする生徒もいれば、みんなが走り終えるまで座って待ち、最後に立ち上がって走る生徒など、それぞれの個性を発揮。客席で見守る生徒の保護者は「体を動かす場がほとんどなく、このクラブは貴重な機会。学生がやさしく丁寧



に接してくれるので、子どもは前日から『明日は、わくわく?』と心待ちにしています」と笑顔だった。担当教員の曾根裕二准教授（アダプテッド・スポーツ）は「生涯スポーツの充実とは社会的な課題になっているが、障がい者の受け入れはまだまだ遅れている。子どもたちにはここでスポーツの楽しさを知ってほしい」と語る。この日、進行役を務めた山崎沙季（教育学部4年）は小学校教員志望で、「特別なニーズのある子どもに対応できる教員」を目指しているという。同クラブに参加する生徒たちは、毎回、気分や体調が違って、「距離を取ったり近づいたり、その日の様子によって対応を考えている。ここでの経験を通じて、子ども一人一人を深く見る力がついた」と話した。

子どもの体力向上推進プロジェクト 専門的知見を取り入れた運動プログラム

泉大津市から委託／社会貢献センター



新型コロナウイルスの影響で延期になっていた「子どもの体力向上推進プロジェクト」を動かすきっかけとなった。9月9日、始動した。大阪体育大学が大阪府泉大津市から委託を受けている事業で、今年で5年目。社会貢献センターが担当しており、大体大の専門的知見を反映した運動プログラムになっている。

同プロジェクトは実施校を決め、数ヶ月にわたって週1回、大体大の学生らの指導で児童らが運動プログラムを実行。最初と最後に体力測定をして効果をみる。「体力向上」はストックなトレーニングを積みイメージがあるが、楽しく体

を動かすことでも大きく向上することが分かっており、同プロジェクトも児童が楽しむことに重点を置いている。

9月9日は泉大津市立穴師（あなし）小学校の児童を対象に行われた。約30人の児童を6班に分けて、それぞれ学生がリーダーに。20メートルのシャトルランをしたり、握力測定に取り組んだ。



社会貢献センター長の富山浩三教授（体育学部）は「スポーツ指導者や教育を目指す学生にとっては、こうした活動はリーダーシップやコミュニケーション能力を養うのにとっても役立つ。企業人にとっても重要な能力であり、就職活動や社会生活に活かすはず」と、学生にも貴重な機会であると話す。

女子硬式野球部の横井光治監督がボール投げを指導するなど多彩なプログラムが予定されている。

大阪体育大学 令和元年度 資金収支計算書

収入の部 (単位：円)		
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入	3,491,044,827	
手数料収入	54,545,700	
寄付金収入	28,419,000	
補助金収入	248,121,152	
国庫補助金収入	247,428,250	
府県補助金収入	692,902	
資産売却収入	50,000	
付随事業・収益事業収入	40,305,591	
受取利息・配当金収入	19,169	
雑収入	150,867,876	
計	4,013,373,315	
支出の部 (単位：円)		
科 目	金 額	
人件費支出	1,856,091,859	
教育研究経費支出	862,380,372	
管理経費支出	240,186,652	
施設関係支出	29,082,400	
設備関係支出	160,963,799	
計	3,148,705,082	

大阪体育大学 令和二年度 資金収支予算書

収入の部 (単位：円)		
科 目	金 額	
学生生徒等納付金収入	3,585,510,000	
手数料収入	49,520,000	
寄付金収入	16,980,000	
補助金収入	280,540,000	
国庫補助金収入	280,360,000	
府県補助金収入	180,000	
資産売却収入	0	
付随事業・収益事業収入	19,490,000	
受取利息・配当金収入	10,000	
雑収入	87,200,000	
計	4,039,250,000	
支出の部 (単位：円)		
科 目	金 額	
人件費支出	1,973,310,000	
教育研究経費支出	1,030,970,000	
管理経費支出	216,820,000	
施設関係支出	166,680,000	
設備関係支出	267,560,000	
計	3,655,340,000	

教育後援会

令和2年度の大阪体育大学教育後援会の役員会は、新型コロナウイルスのため出席による会議は行われず書面審議となった。昨年度の決算と事業の報告、今年度の予算を承認。今年度予算には、新型コロナウイルス対策として、特別対策基金の一部を組み込んだ大学への寄付2000万円が盛り込まれた。

新役員は役員会で推薦を受け、その後の紙上総会で承認された。

◇新役員のうち

役職者は次の通り◇

▽会長 齊藤文代

▽副会長 佐川弘美

▽会計監査 大田政信

大谷哲也

都倉三起子

コロナ対策で大学に2000万円寄付

オープン
キャンパス
2020

高校生らに大学アピール

8月に3日間 予約制で人数限定

高校生、保護者対象のオープンキャンパスが8月1、2、9日の3日間、行われた。今年は新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止も検討されたが、既に各地の進学説明会は軒並み中止になっており、「高校生と対面する機会が必要」との入試部の意向で、参加者数を絞って実施することになった。

大学概要説明は各部ごとに特徴を解説。岡村浩嗣・体育学部長は、体育学部は実技科目やスポーツ科学の専門科目が充実しており、体育の教育免許をはじめ各コースで様々な免許、資格が取れることなどを説明。教育学部は植本章三・教育学部長が、学生は少人数精鋭で教員を厚く配置し、加えて教職支援センターのバックアップで、多数の学生が教員採用試験に現役合格を果たしている実績を報告した。

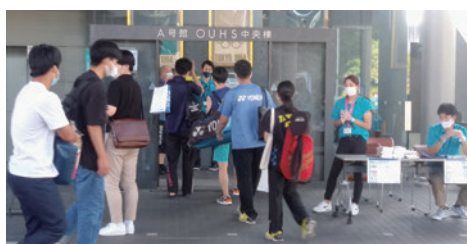
就職状況説明では、キャリア支援センターのスタッフが、両学部とも96～97%の高就職率で、消防官など教員以外の公務員試験でも好調な合格ぶりを説明した。教職支援センターからは、2019年度の教育採用試験現役合格者は延べ47人で、卒業生も含めると約100人だったことを報告。教員を含め公務員試験対策には、学習支援室が粘り強くサポートし、勉強が得意でない学生も合格ラインに導く体制が紹介された。

また、施設を見学するキャンパスツアーでは、最新マシンが並ぶトレーニングルームなどに案内し、スポーツに打ち込める環境が整っていることを説明した。個別相談も行い、授業だけでなくクラブ活動も含めた大学生活全般について、スタッフがあらゆる問い合わせに答えた。参加者からは「ネットでは分からないことがたくさんあり、来て良かった」との声が寄せられた。

◆新型コロナウイルス禍にあつて、フランスのノーベル文学賞作家、アルベール・カミュ(1913年～1960年)の代表作「ペスト」が増刷を重ねています。カミュは中世ヨーロッパで人口の3割が死亡した感染症ペストの流行をモデルに、北アフリカのフランス領、アルジェリアのオラン市がペストに襲われた設定で1947年にこの小説を発表しました。

◆難解な長編の「不条理小説」と評判なので、6月にNHKのEテレ番組「100分の名著」がカミュのペストを再放送したのを見て読んだつもり。ペストの発生でオラン市はロックダウン。オラン市を脱出しようとする者、自ら進んで遺体の処分作業にあたる者、ペストの存在そのものを否定する者……。◆大阪体育大学のスポーツ活動自粛中は「体が動かせないのは頭のトレーニングをする時間を与えられた」「自分流の答えを探し人間として成長する絶好の機会」「ピンチをチャンスに変える方法は必ずある」などなど大学関係者から前向きな意見を多く聞きました。コロナ禍はスポーツに多大なマイナスの影響を及ぼしていますが、禍をどう乗り越えるかのヒントもスポーツの中にありそうだと思います。

【和泉かよ子】



◆新型コロナウイルス禍にあつて、フランスのノーベル文学賞作家、アルベール・カミュ(1913年～1960年)の代表作「ペスト」が増刷を重ねています。カミュは中世ヨーロッパで人口の3割が死亡した感染症ペストの流行をモデルに、北アフリカのフランス領、アルジェリアのオラン市がペストに襲われた設定で1947年にこの小説を発表しました。

◆難解な長編の「不条理小説」と評判なので、6月にNHKのEテレ番組「100分の名著」がカミュのペストを再放送したのを見て読んだつもり。ペストの発生でオラン市はロックダウン。オラン市を脱出しようとする者、自ら進んで遺体の処分作業にあたる者、ペストの存在そのものを否定する者……。◆大阪体育大学のスポーツ活動自粛中は「体が動かせないのは頭のトレーニングをする時間を与えられた」「自分流の答えを探し人間として成長する絶好の機会」「ピンチをチャンスに変える方法は必ずある」などなど大学関係者から前向きな意見を多く聞きました。コロナ禍はスポーツに多大なマイナスの影響を及ぼしていますが、禍をどう乗り越えるかのヒントもスポーツの中にありそうだと思います。

◆新型コロナウイルス禍にあつて、フランスのノーベル文学賞作家、アルベール・カミュ(1913年～1960年)の代表作「ペスト」が増刷を重ねています。カミュは中世ヨーロッパで人口の3割が死亡した感染症ペストの流行をモデルに、北アフリカのフランス領、アルジェリアのオラン市がペストに襲われた設定で1947年にこの小説を発表しました。

◆難解な長編の「不条理小説」と評判なので、6月にNHKのEテレ番組「100分の名著」がカミュのペストを再放送したのを見て読んだつもり。ペストの発生でオラン市はロックダウン。オラン市を脱出しようとする者、自ら進んで遺体の処分作業にあたる者、ペストの存在そのものを否定する者……。◆大阪体育大学のスポーツ活動自粛中は「体が動かせないのは頭のトレーニングをする時間を与えられた」「自分流の答えを探し人間として成長する絶好の機会」「ピンチをチャンスに変える方法は必ずある」などなど大学関係者から前向きな意見を多く聞きました。コロナ禍はスポーツに多大なマイナスの影響を及ぼしていますが、禍をどう乗り越えるかのヒントもスポーツの中にありそうだと思います。

【和泉かよ子】

学友会新役員

今年度の学生代表者総会が6月17日にウェブ会議で行われ、学友会の新役員が決まった。

◆新役員は次の通り◆

会長 續佳那子(教育3年)▽副会長 白石明日香(体育3年)フイールドホッケー部、福島隼人(教育2年)▽総務委員 前田翔希(教育2年)▽会計委員 小西連太郎(教育3年)、大上あずさ(体育2年)フイールドホッケー部▽企画広報委員 菓子瑞樹(教育3年)幼児体育研究同好会、若杉太志(体育3年)アダプテッドスポーツ同好会



キャンパスで新型コロナウイルス感染症防止の注意喚起をした学友会の取り組み



ハードボイルド風に 生きてみないか



コラム **ボーシャー**

名誉教授 和田隆夫

タイトルは、大藪春彦らと日本のハードボイルド小説の基礎を築いた生島治郎のエッセー集から拝借した。彼はハードボイルドの条件を三つあげている。①自分のルールを守り抜くこと、②どんなに痛めつけられても泣き言を言わないこと、③他人に対するやさしさを失わず、自分の傷を他人に見せないこと。

今回はハードボイルドな2人の男の話である。

昨年秋、学会出席の折、東京・神田神保町の本屋をまわっていて昼時になり、「神田まつや」という老舗の蕎麦屋に行くことにした。地下鉄を小川町で降り、駅を出たところの地図板で店の位置を確認しようと、コートのポケットからメモを取り出し、住所と地図を見比べていた。小さな声が耳に入った。

ようやく方向が定まり歩き出そうとすると、横に初老の男が佇んでいた。声の主だった。左手に紙袋を持ち、そこにはカセットテープが袋いっぱい、きっちり納まっていた。

男はやや不明瞭な口調で、「これ、あなたの？」とSuica（JR東日本のICカード）を差し出した。

ぼくはあわててコートのポケットを探った。どうやらメモを取るときに落としたようだ。

礼を言ったばかりに、男ははにかんだような柔らかな表情を一瞬見せると、切れのいい動作で踵を返し黙って歩き出した。紙袋を持つ右肩を少し落とし、ぼくとは無縁であることをはっきりさせるような速さで去って行った。二度と出会うことのない後ろ姿を眺めていて、唐突に作家の田中小実昌さんのことを思い出した。

1981年8月、その日の西ベルリンは茹だるように暑かった。壁の崩れる8年前である。ぼくはベルリン随一の目抜き通りクーダムを走るバスに乗っていた。窓から田中さんを見つけた。少しふらついていて、バスの揺れでそう見えるのか、暑さのせいでふらついているのか、酔っ払っているのか、分からなかった。

田中さんをカセットテープの男から連想したのは、歩き姿が似ているというより、会話や所作から伝わってくる「肌ざわりがいい」という言葉に近い、あえて言えば「心ざわりがいい」というような「感情（こころ）の居心地のよさ」を2人に感じたからである。

田中小実昌さんが「浪曲師朝日丸の話」と「ミミのこと」で第81回直木賞を受賞した数年後である。

その頃の西ベルリンは壁に囲われ、たくさんの外国人が暮らしていた。若者は空き家を占拠し、ベルリン自由大学は学生であふれ、壁では逃亡する東ベルリン市民が撃ち殺され、それでいてドイツらしい暮らしをする人たちがたくさんいた。狼狽と清潔、混沌と秩序が至るところにあり、ゴム風船のように愛と絶望がぶかぶか漂っていた。いかすジャズが流れ、中年の天使が娘に恋をし、クリスティーネ・Fが麻薬と売春に手を出し、カラヤンがタクトを振っていた。とても感覚的でありながら沈滞した街だった。

そんな西ベルリンで田中さんと偶然に出会った。

6月の肌寒い夕刻、多国籍の友人たち、10人くらいいたかな、ギャギャと日本レストラン「京都」に行った。店内に入るやすぐに気づいた。

田中小実昌がいる。

ポーランド人の友人がウオッカを持ち込んでいたので、ぼくは「おいしいウオッカがあります。一緒にどうですか」と図々しくお誘いした。そのときは断られたが、30分ほどしてぼくたちのバカ騒ぎに誘われたのか、空のグラスを両手で大切に抱えてぼくたちのテーブルに来られた。今でもその姿が忘れられない。中年のおじさんでこんなにかわいい所作のできる人がいるのかと思った。そのかわいさがカセットテープの男と重なる。

2人から「年をとるだけタフになれば、そしてやさしく生きろ」と教えられたように思う。

その晩はウオッカだけで終わらず、店を替え明け方まで飲んだ。

田中さんとはこれで終わらず、どうも不思議な縁があるようで、次の偶然は5年後の銀座だった。学会の午後の部をさぼり、銀座をぶらついていると5丁目辺りの路上で再会した。挨拶をすると、「ハイ？・・・ハイ！」と愛想笑いはなく応えられた。すでに酔っているようで、ぼくのことを思い出したのかどうか今も分からないけど、そのまま飲みに行った。それ以来もう偶然はない。そして2000年2月に逝去された。

自分の決めたルールで屈託なく生きる男はカッコいい。
生島治郎は言う。

人は「殴ったときより殴られたときに個性がでる」
殴られたときこそ、粹な捨て台詞をはいて、自分の道をそのまま歩く。

どうだろう。ハードボイルド風に生きてみないか。



田中小実昌『香具師の旅』（河出文庫）表紙



『田中小実昌』（KAWADE 夢ムック文藝別冊）表紙



田中小実昌『世界酔いどれ紀行ふら』（光文社）表紙



生島治郎『ハードボイルド風に生きてみないか—男の行動原理—』（ワニ文庫）表紙



極める力。

人を学び、育て、支える。

大阪体育大学

【大学院】

- スポーツ科学研究科
博士（前期・後期）課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター

支援組織

教養教育センター、キャリア支援センター
教職支援センター、学習支援室
学生相談室・カウンセリングルーム

<https://www.ouhs.jp>